

●留萌地方美術教育研究会役員

会 長 加藤 正(沖見小)*
副 会 長 佐々川正雄(鬼鹿小)
" 赤塚悦蔵(羽幌小)
" 桜庭忠雄(振老小)
事務局 長 高橋 鎔治(東光小)
事務局次長 海東 定一(留萌小)

●空知美術教育研究会役員

会 長 早弓 弘行(晩生内小)
副 会 長 中里 馨(長沼中央小)
" 青山 清輝(岩見沢小)
" 水谷 淳(深川菊水小)
事務局 長 田上 功(奈井江小)*
事務局次長 田家 靖久(赤平茂尻中)

●松山造形教育研究会役員

会 長 三浦 敏勝(厚沢部小)*
副 会 長 西海谷鶴治(栄浜中)
事務局 長 野呂 憲一(江差小)

●旭川教育研究区工美術部役員

部 長 古屋 栄隆(春光台中)
副 部 長 原 良三(愛宕中)
" 千葉 豊治(東陽中)
事務局 長 重山 恵(光陽中)
" 築山 尚明(光陽中)
地区委員 渡辺 正勝(末広小)

●函館市美術教育研究会役員

会 長 乳井 邦衛(深堀小)
副 会 長 鈴木 利彦(千代田小)
" 秋山 修世(光成中)
" 信永 昭三(西小)
" 菅原 昭一(中央小)
幹 事 長 石井 久(弥生小)*
" 伊藤 英明(本通中)

●オホーツク造形教育連盟役員

委員 長 吉田 義晴(来運小)*
副委員 長 豊島 豊(潮見小)
" 金子 定雄(女満別中)
" 横田 勇吉(佐呂間中)
事務局 長 黒河 洋輔(東藻琴中)*
事務局次長 高橋 忠昭(潮見小)

●北海道造形教育連盟役員

委員 長 遠藤 久男
副委員 長 一ノ戸信雄(道央)
" 加藤 正(道北)
" 吉田 義晴(道東)
" 種市誠次郎(札幌)
" 越田 一喜(道南)
事務局 長 森川 昭夫(札幌白楊小)

●札幌支部役員

支 部 長 坂口 清一(藻岩小)
事務局 長 岩間 藏仁(もみじ台中)

●室蘭市教育研究造形部役員

部 長 赤司 賢二(知利別小)
副 部 長 野々原健次郎(高平小)
" 中村 民夫(成徳中)
研究主任 千葉 弘治(向陽中)
共同研究者 中坪 市郎(高砂小)
" 高橋昭五郎(成徳中)
地区委員 志賀 健一(水元小)
" 武田 貢(東中)

●根室造形教育研究会役員

会 長 川野上 彰(別海中央小)*
副 会 長 清水 克美(北斗小)
事務局 長 桐沢 享(幌茂尻小)

●苫小牧造形教育研究部役員

部 会 長 桜田 幸男(清水小)
副 部 会 長 高城 敬二(凌雲中)
" 池本 良三(西小)
" 内潟 光尚(緑小)
幹 事 長 吉田 隆一(清水小)
地区委員 片桐 勉(光洋中)

●十勝造形サークル

委員 長 湯川 守(鹿追小)*
副委員 長 寺本 吉明(足寄東小)
" 横田 裕美(緑南中)
事務局 長 斉藤 隆博(幕別中)
事務局次長 高橋 正美(豊頃中)

*印は地区委員兼務

目次 事業部の活動…………… 2
随 想…………… 4

人物往来…………… 6
実践校紹介…………… 7

実践者紹介…………… 7
透明水彩絵の具を使って…………… 8



北海道 造形教育 連盟報

発行 北海道造形教育連盟
事務局 〒001 札幌市北区北24条西7丁目
札幌市立白楊小学校 ☎721-4158
No. 68 1983. 7. 27 発行



北海道造形教育連盟報雑感

北海道造形教育連盟
委員長 遠藤 久 男

北海道造形教育連盟報・No.68が留萌大会に合わせて発行され、参加会員と一緒に読み合えることになり大変嬉しくおもいます。

留萌市が初めての開催地であることで、今、私は美幌大会の事を思い起こしております。

全道大会を開催するというのは決して容易な事ではない。各々の地区には各々の事情がある。研究実態はどうなっているか、スタッフはどうか、資金の面をどうするか、会場はどこにするか等々思い感う事ばかり、留萌大会とて同じ事で、部内組織や運営、事業等の推進や計画、対外的交渉と関係者の方々は難儀されたことであらう。

今年5月発行のこの連盟報・No.67に、当連盟の顧問菅原隆治氏の随想文、私の歩んだ道——オホーツク造形のこと、が掲載されておりました。この内容は美幌大会裏話の1～4と、オホーツク造形結成までの経過ですが、一貫して美幌大会開催への軌跡でユーモアたっぷりの回想であります。オホーツク造形の必然・活動資金・人脈・開催決定の経過・対外交渉や開催地のこと等々。今まで誰もが味わった身につまされる語りかけであります。800人をようしたあの美幌大会は私の記憶に今なお新しいものがあります。

現在のオホーツク造形事務局長横田勇吉氏の、菅原隆治顧問を語るも同時に掲載されましたが、オホーツク造形誕生から数々の業績を詠いあげている文中で、美幌大会当日菅原氏の目に一粒の涙の光をみたのであると記されている箇所が印象的で、委員総会等でお逢いし、私が菅原氏に抱いていた熱情的なイメージと重なり深い感動を覚えました。

今回の留萌大会でもより多くの人々の同志的結合や出会い、そして数々の人間模様がドラマチックに展開されたことであらう。筆舌に尽しがたい感動のノンフィクションとして。

ここに、留萌地方美術教育研究会とオホーツク造形の益々のご発展を願い、共に造形の仲間に尽されたご苦労に対して、心からお礼を申し上げます。

(札幌・豊園小学校長)



全道の教室から子どもの声 —実践・発表の場としての事業—

北海道造形教育連盟
事業部長 佐藤 吉五郎

造形教育連盟の活動には研究実践で話し合い、深め合い、実践し、試行しながら教育を高めていく研究部の仕事と、それらの成果として子どもたちがどう取り組み、どう楽しんだか、を作品という形で発表する場としての各種事業を考える事業部がある。

毎年開催されるこれら事業を通して、全道各地で実践活動をしてられる連盟の皆さんの熱い姿勢とその中で生々と学習する子どもたちの声を聞く喜びは、この仕事を担当する者の最高の役得のような気さえする。

ここであらためてこの事業に積極的に出品して下さったり協力して下さった皆様に感謝申し上げます。

昭和58年度に予定しております各事業についてお知らせいたします。

① 第10回 北海道教育美術展

- ・全道幼稚園、保育園、小学校、中学校の子どもを対象に絵画作品、版画、デザイン等の作品募集、展覧会開催。
- ・300点を準入選、700点を入選とし、入選の中から100点を奨励賞として入選以上を展示します。
- ・奨励賞の100点にはカラー写真を付け寸評をつけ賞状を贈ります。
- ・作品の受け付けは、12月25日までとし、審査は12月26日・27日行います。
- ・展覧会は1月上旬、札幌東急百貨店で行います。
- ・作品は造形連盟事務局まで申し込んでいただければ全道に貸し出しいたします。

(実費現地負担)

本年度は10回展の記念すべき年になりますので何か記念になる事をと只今考慮中であります。

例年この展覧会を運営していて気がついた点がありますので、出品して下さる皆様のために次の点に留意下さるようお願いいたします。

- ・絵画作品は四ツ切り画用紙の大きさにお

願います。もしそれ以下の作品の場合
は四ツ切り大の画紙等の台紙にはって出
品下さい。

- 例年審査終了後に作品が届き、せっかく
の作品が無効になるケースがありますの
で年末忙しい時ではありますが12月20日
までにおくれないで作品を送付して下さ
い。
- 審査は全道各地の作品が出来るだけ公平
に入選するよう地域を考えて行っていま
すので、地域性のよく出た内容のものを
期待いたしております。
- 本展覧会は標題のように、教育美術展で
すので日常の学級における図工の授業か
ら生まれた素直で伸々した作品を待ち望
んでおります。
したがって特別に時間をかけたり、特別
の子どもたちを対象にしたような作品は
望ましくなく、教室から生まれた子ども
の作品を大切にしたいと願っています。
- 展らん会終了後の落選作品は3月まで審
査会場（札幌市立山の手南小学校）に保
管してありますのでその間にお引渡しを
行っております。

主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
後援 北海道教育委員会
協賛 さっぽろ東急百貨店
株サクラクレパス

② 第8回 全道小・中学生立体造形展

- 全道小・中の児童生徒を対象に広く立体作
品を募集し、これを展示し、啓もうを図る
事業
- 身近な材料を利用し造形の美に挑む児童、
生徒の作品は、工作（木、紙、金属等）の
他、やきもの、機構作品、彫塑等、広い領
域を含む。いずれも授業より生まれた作品
を対象にしています。
- 作品については、こわれにくいもの。1人
でもてるぐらいの重さのもの。粘土は素焼
きのもの、大きさは、たて・よこ・高さの

合計が1 m50cm以内のもの等として、プラ
モデル、モーター使用のものは除きます。
又個人製作のものに限ります。

- 審査方法は地区別審査会とし、札幌、旭川
函館、室蘭、釧路の5都市で行います。
- 各地での入賞作品を対象にした全道審査会
を札幌で行い文部大臣賞他の賞を与えます。
- 各地区審査会は10月頃各地区ごとにお知ら
せし、全道審査は10月下旬、札幌ヨーク松
坂屋で展覧会を行う予定です。
- 昨年は全道各地の104校、3,115点の応募が
ありました。

主催 北海道造形教育連盟
読売新聞社北海道支社
後援 北海道、北海道教育委員会、札幌市、
札幌市教育委員会、旭川市、旭川市教育委員
会、函館市、函館市教育委員会、室蘭市、室
蘭市教育委員会、釧路市、釧路市教育委員会
協力 北海道電力

③ 東急子ども造形教室運営

在札造形連盟常任委員の協力により毎週土曜
日、札幌東急デパート内特別教室で年少、年
長組に分けて、幼・小の児童対象に幅広く造
形活動を展開している。

- 日常の理論研究を背景にその実験的実践とし
て検証も含めて確かめている。
- 工作、絵画、粘土、版画等年間を通して全常
任委員に呼びかけ相互に連けいを図りながら
実践研修を構築している。

主催 北海道造形教育連盟
東急札幌デパート
協力 造形連盟札幌支部

④ 事業部担当副部長の紹介

- 教育美術展担当 芝木秀昭（山の手南小学校）
- 立体造形展担当 白井窓毅（大倉山小学校）
- 東急教室担当 伊藤暢紀（幌南小学校）
- 中学部門担当 佐野千尋（東月寒中学校）

事業部事務局 札幌市立山の手南小学校 Ⅸ621-6771
（札幌・山の手南小校長）

◆ 随想

誤



一年生の女の子で、台所のことを『ライドコード』と発音する子がいた。

何度尋ねても同じだから『だいどころって言ってごらん』と教えた。でも返ってきたのは『ライドコード』であった。彼女にはそうしか聞かえないらしい。

で、紙に書かせた。が、案の定『らいどこど』と書くではないか。朱を入れる。口でも練習する。さて書かせる。やっぱり『らいどこど』であった。

言葉の通りに文字にするのを原則とする以上、彼女にとって正解は『らいどころ』しかなかったらしい。

一見簡単な誤解も、直すとなると大へんである。

二年生に物差の目盛りの読み方を教えた。女の子がひとり、いつも読みちがえる。

たし算もひき算もよくできるのである。

本人よりも、先生があわてた。

で、傍に行き、目盛りを数えさせて見て驚いた。0の目盛りまで1に数えていたのであった。

本当は、目盛りと目盛りの間を数えさせるところをついうっかり念を押していなかったのである。

先生は、自分の迂闊な指導を指摘された思いであった。子どもの誤解が先生を教えたのであった。

三年生で、色の明るさの学習があった。

色が明るい暗いは、見れば誰にでもわかる筈だと先生は思う。これは、教えるというようなことではないと考えたから、12色の色紙を黒板に貼り出して、——この中で一番明るいのは何色でしょう——と尋ねた。真っ先の子が答えた。

「赤です」

黄色ではなかったのである。黄色という子もいない

解

北海道造形連盟顧問 伊藤 恵

わけではないが、赤が意外に多いのであった。

〈これは、教えないわけにはいかない〉と先生は思った。

そういえば、確かに赤は目立つ色だ。つまり明らかな色である。

赤々と燃える火はまた明るいではないか。

あの明るい太陽を描くとき、子ども達は赤いクレヨンを使うではないか。

だから、赤ほど明るいものはないと、子ども達は思ったのだろう。

先生にはわかり切ったことも、子どもには必ずしもそうではないのだ。先生の誤解であった。

× × ×

線接着に使うゴム系接着剤が市販されて、30年ほどになるが《くっつける物の両方に塗って、半乾きで接着する》という、たったそれだけのことが、まだ一般に行きわたってはいない。

一般に澱粉系の糊では、面と面とを接着するのに、片面に塗って、すぐ着けるわけだが、それと混同するためかも知れない。

紙立体の講習があると、先生はそのことを実習を通してながらかなり力をいれて説明する。

にもかかわらず作業に夢中になると、つい澱粉系の糊の使い方に戻っていることが多い。もっとも、片方の紙が薄い場合の面接着なら、ゴム系でも澱粉系と同じ着け方で用の足りることはある。それと混同してしまうのかも知れない。

先日、電話があった。

「先生と一緒に作っていたときは、確かによく着いたのです。でも学校で子どもとやったら、うまくいかないのです。」

——あの同じゴム系の接着剤を使いましたか——

「ええ、勿論です。」

——すると、くっつける物の両方に塗りましたか、半乾きで、くっつけましたか——

「ええ、勿論です。」

こう話ができるのも困ったものである。どこか作業に間違いでもなければくっつかない筈はないのに。

——でも先生、もう一度やってみてください——

と、言うしかなかった。

わかっているのに誤解ということもあるらしい。

× × ×

先生がまだ若かったころ、＜説明が正しくて、子ども達がよく聞いてくれさえすれば、授業はよくわかる＞と思っていた。

反対に、子ども達が失敗するのは、＜聞き方が悪いためだ＞と決めていた。

先生の説明が終る。

— どうだ、わかったか、さあはじめ —

子ども達は長い説明から解放されて、正直の話、少々わからないところがあっても元気に返事をする。

「はーい。」

その返事が悪いと、先生はいう。

— なんだ元気がないぞ。いいか、もう一度 —

と返事の催促となる。

子ども達は、説明がわかったかどうかとは別に、返事のために返事をする。

作業に入ると、なかなか手の出ない子や、すぐ失敗する子がいて、返事のうそがわかる。

先生は厳しい。

— そら、また失敗した。説明聞いてなかったな —

「聞いてました。けど。」

— けどナンだ。聞いてたら間違う筈はないじゃないか。うん —

無理難題であった。

一度の説明でわかるくらいなら習いはしないのだ。よしよかったとして、一度や二度の失敗は当然ではないか、なのにそれを先生はわかってほしいのだ。

実際、何度聞いてもわからない説明がある。失敗は『説明がわからない』ことの信号である。

先生に、その誤解が誤解とわかったとき、担任をはなれてしまっていた。

× × ×

幼稚園の面接。園長先生が、かわいい初対面の子に言った。

— 好き嫌いしない人、手を挙げて —

子ども達は、2、3人を残して元気に手を挙げた。

「はーい。」

つられて手を挙げる子のいることを先生は知っていた。だから、手を挙げたかどうか目撃を立てたりはしない。でも子どもはちがっていた。

好き嫌いのはげしいAも手を挙げてしまった。

帰り道でAは母親に言った。

「おかあさん、ぼくのおべんとうつくるとき、好きなものばかり入れてね。おねがい。」

好き嫌いのはげしいBも手を挙げてしまった。

帰り道でBは母に言った。

「おかあさん、ぼく、こんどから何でも食べるよ。」

先生が軽い気持ちで言ったことを、子どもは一大事と受け取った。一種の誤解であった。

Aは、べんとう毎につらい思いをした。

Bは、べんとう毎に、誇らしく思うのであった。

伊藤 恵先生に学ぶ

文を書くのが何より苦手な私は、すぐ大先輩のケイ先生の書かれた文を思い出します。読み始めるとつい引き込まれて一気に読み通してしまいます。ユーモアがあり表現のうまさは勿論ですがケイ先生の暖かさが伝わってきます。先生が語りかけて下さってくれるようなほのぼのとしたよい気分にさせてくれます。しかも、そんな中に実に緻密で冷静なものの考え方を感じとらせてくれます。いつもすごいなあと思います。

それは、ケイ先生の人柄そのもののように思います。ケイ先生の人柄と文とが完全に一致しているように感じます。ケイ先生の居られるところ常に笑いが絶えません。話がおもしろいだけではなく魅力があるからです。札幌の函工部主催の紙工作の実技講習をされた時など参加者があふれ、教室では間に合わず、体育館が満員になったほどでした。

ケイ先生は、「わたしは、育てられる人であった。」と謙遜されていますが、本当の意味での「人を育てる人」であると思います。

これからも、そんなケイ先生にうんと育てられたいと願っています。

札幌市立大倉山小学校

白井 園 毅



創造性を育てる 造形教育の実践課題

造形連盟顧問
函館幼児美術教育研究会主事
滝村 虎雄

社会の変化は、子ども達にも人間性が疎外され、主体的にもものを見る力が乏しく、表現が類型化し個性が乏しく創造性に欠ける傾向がある。この実態から造形教育の果たす役割を見直し指導の改善研究が当面の課題である。造形教育は創造性豊かな主体的な人間形成をめざし教科性を確立し学習指導の改善をはかることが肝要である。創造性を育てる指導の要件は、1.教材の精選と系統化(造形能力を身につける価値ある題材) イ.造形課題をもつ題材の設定 ロ.環境設定 ハ.子どもの感動を燃焼させる ニ.子どものイメージづくり ホ.対象の把握(五官を通しての感性的認識) ヘ.豊かな表現(内面性と造形性の統一・生き生きとした自己表現) ト.表現材料の駆使 チ.作品の鑑賞と評価(視覚性の個別化と普遍性・表現意欲を促す)等である。これからも基本理念に立つ日常実践を深める研究交流をはかりたい。



太陽のイメージ

札幌市立向陵中学校
菅原 稜三

今年度は中学1年生10クラスの授業を受け持ちしている。生徒の自由な発想を大切に、“太陽のイメージ”と題し、描画をさせてみた。いろいろな技法とその効果を生かす学習内容で、熱い、まるい、大きい、赤いイメージから太陽エネルギーまでそして個々の生活からにじみでてくる強烈なイメージのある生徒と活気に満ちた生き生きとした雰囲気の中で意欲的に進められた。高めたい力としては、イ.色や形として想像する力。ロ.技法を生み出す力。ハ.印象や構想を生き生きと表わす力、が主となる。全道が一番活動的になるこの題材の時は、一年中で私も一番熱の入った授業になり、満足感にひたり、教師をしていてよかったなとつくづく思ったりもする。空想の世界と表現技法をあわせた内容でしっかりと生徒の美術的な心をとらえ、これからも楽しい授業を続けなければと考えている。

人物 往来



遊びと造形活動

留萌市立留萌小学校
海東 定一

子ども達は、本来すぐれた遊び師であり、仕事師である。しかし、現実の子ども達は、遊びの場所も手段も仲間も奪い取られ、テレビとマンガと勉強に釘づけされた存在に追いやられていると言っても過言でない。そんな子ども達に、思い切り身体を動かし、知恵と技を働かし、仲間と力を合わせたり競い合うことができる豊かな遊びを取り戻してやりたい。そして、遊びが子どもの発達のすじ道にそった教育活動の中に正しく位置づけられるとしたら……そんな願いをこめて海で、川で、近くの山で、土と砂と、木や草とからだごと切り結んだ活動をしようとする造形遊びに取り組んでいる。

全道造形研で、遊び師、仕事師としての44人の子ども達が仲間と共に知恵をしぼり、力を合わせて遊びに取り組む姿を見てもらうのをお待ち致しております。海と山に恵まれた留萌へどうぞ。



教育美術展によせて

サクラクレパス札幌営業所
橋本 章男

北海道教育美術展も今回第10回目を迎える運びとなりました。これもひとえに先生方の御尽力の賜と深く感謝申し上げます。さて私事です。さ北海道へまいました。思えば第6回の美術展からお手伝いさせていただき、ただ成功裡に終わることのみを祈ってすごしてきました。しかし審査時に観る子供の絵は私に毎年新しい感動を与えてくれます。感動を画用紙いっぱい語りかけてくる絵、本当に素直な絵、大胆な構図と配色の絵、緻密で丁寧に描かれた絵などに出会える喜びを今年も先生方と一緒に味わいたいと思います。すばらしい絵に出会える喜びを最大の幸せと思ひながらも先生方のお手伝いをさせていただきたく思います。記念すべき第10回教育美術展にすばらしい作品が多数応募されます事を祈り、相変らずサクラ製品の御愛用の程よろしく願い申し上げます。

実践校紹介

意欲的に学ぶ子の育成

— 学ぶよろこびと
豊かなふれあいを求めて —

札幌市立伏見小学校

伏見小学校は、この6月29日に第6回教育実践発表会を開催し、8教科と道徳・集会活動を27学級で公開しました。実践そのものは日頃のささやかなものでありましたが、校舎改築の合い間を縫って、職員48名の一丸となった児童育成の姿を見ていただき、380名の参会者に御指導いただけましたことは、この上なく感激の日でありました。

本校は、発表会の翌日6月30日から改築第3期工事に入りました。56・57年度と2期の工事が進み、校舎事情は安定しておりませんが、日々成長している子どものために、何とか役立つ環境づくりと心をかけて参りました。そのためには、買った品物より子どもや教師の手作りの掲示その他を、図工科での掲示物は、本校独自のカリキュラムで、全校の発達が見られる作品を鑑賞用として掲げたものであります。

研究実践としての図工科では、他教科と同じように・新しいものを生み出す集団の営みであるところの、

学級及び学校生活を基盤とした「子どもの生活の論理」と、・ひとりひとりが意欲的に学ぶ授業づくりを為す「教材の科学的論理」を追求したのでありますが、研究のテーマとして、

「豊かな感性で想を生み出す子ども」とかけ、

1. 教材の構成——・基本的指導事項のおさえ（何のように、どこまで）・課題性（素材の検討、想を生ませる事象検討、想に近づけさせる活動の検討）
・実態の加味
 2. 実態の利用——・実態把握の内容、方法、時期、利用法、個人カルテ、座席表
 3. 授業の組織化——・子ども自らが解くために（教材のとらえ、学習態度づくり、追求のカギの発見、追求過程の力の育成）
・コミュニケーションの場づくり
・授業の評価
- という内容を追求しました。

（文責 長津喜代）



実践者紹介

みどり深い 帯広を描く

丸谷 雄次 帯広市立帯広第一中学校

日高山脈の残雪がすくなくなる頃、帯広のみどりはいっそう深くなる。

帯広の街をみどりで囲むという雄大な構想で発足したいわゆる「帯広の森」は年々その輪が大きくなっていくし、街路樹もプラタナスを始めとして整然と植えられている。

この緑深い帯広の木々を描かせる機会を多くとって年1回の写生会も1年生は街路樹の多い中央公園、2年生は、街を流れる帯広川そして3年生は大木が茂る帯広神社をみどりを求めて



描かせている。

生徒たちは、小学生の頃から樹木を写生する機会は多かったと思うが、生徒の描く木々は電柱のようにまっすぐで、幹は茶色で描かれている。このため、1年生が入ってくると木の根、枝ぶり、そして枝のつけねとよく観せていねいに描くことから始めている。こ

んな指導が毎年毎年くりかえし行われている。ほんとうに我ながら根気づよいと感心したりする今日この頃である。

来年は札幌に集まろう

第34回 全道造形教育研究大会・札幌大会

- ◎ テーマ 創りだす心呼び起こす造形教育
- ◎ 会期 昭和59年7月27日(金)・28日(土)
- ◎ 開催地 札幌市

- ・授業公開……17教室
- ・分科会……14
- ・パネルディスカッション
- ・実技研修会
- ・レセプション
- ・講演
- ・スケッチツアー
- ・教育視察

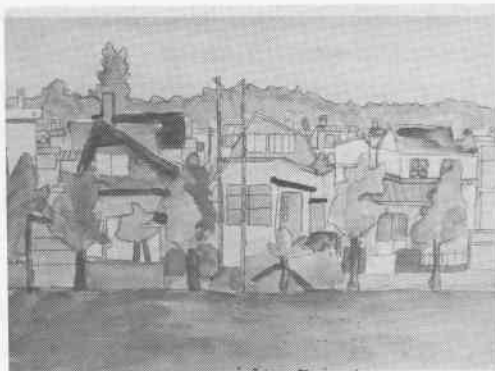
透明水彩絵の具を使って

色をぬっても下地の色が見えることを透明といい、透明絵の具を画用紙などにぬると、すきとおった感じで画用紙がいつそう絵の具の色をひき立たせます。透明絵の具でかかれた絵は、発色が鮮やかで全体が明るい調子の絵になります。

サクラ透明水彩絵の具は、精選された顔料を超微粒子化した最高級絵の具で、水への溶解性がよく、伸びが大変優れています。その特性を生かした指導で子ども達に透明水彩絵を描かせたいものです。



右の写真は、6年生の児童が、サクラ透明水彩絵の具を使用し、80分で仕上げた作品です。短時間で描き上げれる事ができるものこの絵の具の長所です。形は、サクラのサインペン「ビグマ」を使用しました。



新琴似緑小学校6年 川原 信

透明絵の具を使用するとき

1. 形をとる時は、耐水性のペンを使用するとよい。最後まで形が残るので、手をぬかず誠実な線で描く。
 - ・水を多めにふくませた筆で色をつくる。穂先を画用紙の上を走らせるような感じで彩色する。
 - ・色がにごるので、パレットでの混色はさける。
 - ・色が乾いてから重色する。
 - ・時間がたつと色彩が定着し薄くなるので、少し濃いめの色を作ってぬる。
 - ・筆洗いは何回もとりかえ、きれいな水を準備する。
 - ・3.4年生では、重色をさけ、最初にぬった色だけで仕上げるのもよい。ハイライトを残して描いていく本格的な水彩技法は、高学年で指導されるのが望ましい。
- 〈文・札幌・新琴似緑小 伊藤英世〉



株式会社 サクラクレパス 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目
〒064 TEL (563) 5161 (代)

あ と が き

原稿をお寄せくださった先生方に深く感謝いたします。次号は、留明大会の集約を11月に発行いたします。

吉田倭雄 (新川中央小) 富田 泰 (栄緑小) 村谷利一 (札幌中) 東志 隆 (八軒東中)
伊藤英世 (新琴似緑小)